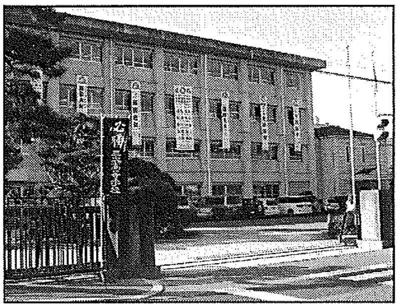
高等学校・特別支援学校高等部会

日本の伝統と文化を大切にし，
先人達の人間としての在り方生き方に学ぶ道徳教育の実践

広島県立三次高等学校
教諭　森　多　浩　文

はじめに

本校は，広島県北部に位置する三次市にある。明治 31 年に広島県第三尋常中学校として創立され，中村憲吉や倉田百三などの文学者を輩出した。今年創立 112 年目を迎える歴史ある普通科高校である。現在各学年７クラス，生徒 802 名が在籍し，「誇りある三高生」「逞しい三高生」としての自覚を育み，校訓「一校一和」「文武両道」を掲げ，生徒と教師が一丸となって取り組んでいる。



部活動においては，ライフル射撃・競泳において２人のオリンピック選手を輩出し，レスリングでは国体３位入賞の輝かしい成績を残している。また吹奏楽部・美術部においても全国大会出場を果たしている。

道徳教育においては，平成 21・22 年度道徳教育実践研究事業の指定を受け研究実践を行っている。

本校の生徒の実態として「基本的生活習慣はほぼ確立されており，地域からも挨拶をよくする」と評価されている。素直で言われたことに対して，しっかり応えていこうとする態度も育っている。しかし自らを律して自律的な学習者としての育成は，まだ十分ではない。人間としての在り方や生き方を主体的に探求し，豊かな人間形成を目指すためには，自分はどう生きるべきかを問いかけ，豊かさの追求だけではなく日本人としてのアイデンティティの確立と，責任あるモラル意識の形成が必要である。

１　研究の特色

（１）道徳教育全体計画の作成及び効果的な活用
（２）家庭・地域社会との連携協力により，先輩・先人や保護者・地域の人々に学ぶ道徳教育の実践
（３）生徒会活動ボランティア活動やホームルーム活動における実践等，教育活動全体を通じて行う道徳教育

２　実践事例
（１）道徳教育の推進

①　道徳教育推進体制
道徳教育推進会議及び道徳教育運営委員会の開催。

②　道徳教育全体計画
学校としての重点や方針を明確化と効果的な活用。

③　道徳教育と関連する領域の年間指導計画
特別活動（学校行事・生徒会活動，ホームルーム活動等），総合的な学習の時間，各教科での取組（地歴公民及び地歴公民以外），ボランティア活動における指導のねらい等の明記。

④　各教科等における年間指導計画
実施時期及び対象学年，各単元で中学校道徳における四つの視点及び２４の内容項目との関連化。

（２）先輩・先人や保護者・地域の人々に学ぶ道徳教育

① 倉田百三，高杉良，山本周五郎作品の教材化

生徒一人一人に人間としての在り方や生き方を考えさせるために，生徒により身近で心に響く教材の開発が不可欠である。そこで，本校卒業生である倉田百三の作品や高杉良著「炎の経営者」の主人公で本校卒業生でもある八谷泰造の生き方，さらには江戸時代の三次を舞台とした山本周五郎の作品を通して，自己の生き方在り方について考えを深めさせた。同時に，郷土出身の先人の生き様を学ぶことは，郷土を愛する心をはぐくむものになると考えている。

② 各教科等における指導

各教科等の授業の中で，先人等から学ぶという視点で道徳教育の内容を取り込みながら，授業展開を行っている。例えば，理科（生物）においてはロバート・フックやシュペーマン，地理歴史（世界史）においては玄奘等にまつわるエピソードを取り上げ生き方につながる話題を提供している。また，現代文においては，芥川龍之介の『羅生門』を教材として取り上げる際，葛藤等を通して自己を見つめ直させている。

学習指導案の抜粋

国語科　学習指導案

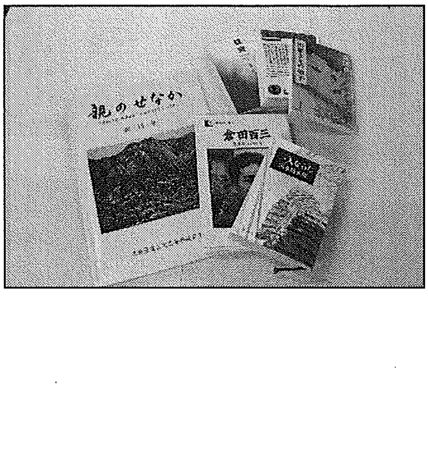
○ 教科　国語
○ 科目　古典
○ 教材名　「項羽と劉邦」（『標準古典』第一学習社）
○ 実施学級　３年生文型クラス
○ 単元の目標
・語句の意味や用法および文の構造を理解することができる。
・「項羽と劉邦」を読むことを通じて，人間，社会などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの感じ方，考え方を豊かにすることができる。
○ 道徳の観点
登場人物のあり方やものの考え方について理解し，自己を振り返って寛容の心をもち謙虚に学ぶ。

中　略

○ 学習の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	評価規準
導入	○「樊噲頭髪上指す」を音読し，前時を振り返る。		
展開	○本文中の記述にある言動から，項羽・劉邦・范増・項伯・　張良・樊噲の担う役割や，ものの考え方について整理する。 ○意見を出し合い，登場人物がそれぞれに担っている役割や，ものの考え方について共通の理解をもつ。 ○もっとも印象深い人物と，そう感じる理由についてまとめる。 ○意見を交流し，考えを深める。	○生徒の発言をもとに，登場人物の言動を振り返り，それぞれの特徴が見えるようにまとめる。 ○まずは隣の生徒と交流し，その後全体で共有する。	登場人物のあり方やものの考え方について理解しているか。

③ PTA 制作「親のせなか」の教材化



「親のせなか」は，PTA 企画による創立 110 周年記念事業の一環として，保護者によるキャリアアドバイスとして発刊された。その内容は，職業を志した理由・きっかけ，厳しさ，楽しさ・やりがい等を中心にまとめたものである。

～「親のせなか」を学んで　～

学校では勉強の方法を学んでいますが，社会へ出てからが本当の勉強だということを読んで，やっぱりそうなのかと思いました。この言葉にはっとし，また感動しました。社会へ出てから本当の勉強だから，今一瞬一瞬を大切にしないといけないと思います。もっと頑張る必要があるのだと感じると，少しやる気を出せました。

（３）生徒会活動ボランティア活動やホームルーム活動における実践

①　「一校一和宣言」の実践
- ボランティア活動
- 生徒会行事
- 学校行事

「一校一和」宣言

私たちは，三次高校にきて良かったと思える人となるため，次のことを宣言します。

1　私たちは，皆がすがすがしい気持ちになれるよう大きな声であいさつします。

2　私たちは，三高生の誇りを持てるよう服装・あいさつ・時間をきちんとします。

3　私たちは，文武両道の精神で勉強とクラブに全力で取り組みます。

4　私たちは，身近なところから資源を大切にするよう心がけて行動します。

5　私たちは，学校はもちろん地域もきれいになるよう掃除します。

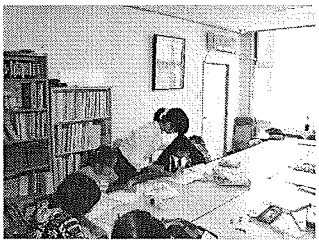
6　私たちは，自分の周りの友だちや保護者・地域の人を大切にします。

7　私たちは，国際交流に積極的に参加し，たくさんの国の人たちと仲良くします。

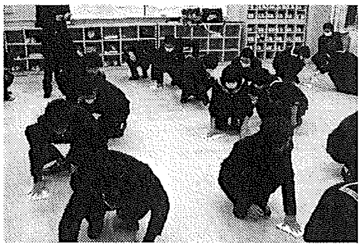
8　私たちは，勉強，クラブ，行事などすべてのことに一生懸命取り組みます。

広島県立三次高等学校生徒会

小学生学習支援ボランティア



クリーンディ



②　「心のキャリアノート」作成・活用

道徳教育と関連する領域の年間指導計画に示されているように，3年間を通じて計画的に作成・活用している。

「心のキャリアノート」より抜粋

ボランティア活動では，自分の体験談を話したり，勉強を一緒にしたり，小学生，先生方と楽しく過ごすことができました。今回，母校でボランティアをしてみて，改めて自分はこの小学校が大好きで，誇れる学校であると感じました。この小学校は今年で廃校になってしまうけれど，自分達が過ごしてきた思い出は忘れることのない宝物です。だから私は今回のボランティアに感謝し，これからも胸を張って母校のために尽くしていくつもりです。

（４）月間目標を設定した実践

月間目標を各教室に掲示するとともに，心のキャリアノートに明記し，全学年で取り組む。

４・５月：「団結」「実践」 ６・７月：「信頼」「心情」
８・９月：「鍛錬」「判断」 10・11 月：「自律」「態度」
12・１月：「創造」「意欲」 ２・３月：「継承」「習慣」

３　研究の評価

（１）「心のキャリアノート」の作成

①　個人ファイルにて保存

心のキャリアノートをファイルに綴じ，保管することで，３年間の生徒の変容を把握する。

②　学級通信・学年通信に掲載

学級通信や学年通信を活用し，心のキャリアノートの内容を家庭や地域に紹介し，情報発信を行う。

（２）道徳教育アンケートの実施

①　アンケート項目については，中学校道徳の２４内容項目を参考に構成し，項目ごとに意識と行動について統計処理を行っている。その中で，意識の項目と行動の項目の乖離を中心に分析を実施する。

②　年２回実施

平成 21 年度　道徳教育アンケート（3 月）　集計結果《1 年》

	意識に関する項目	当てはまらない	当てはまる	行動に関する項目	当てはまらない	当てはまる
1	規則正しい生活習慣を心がけ、健康な生活を送るよう努力している。	26.3	73.3	規則正しい生活をしている。	48.1	51.9
				3食の食事を規則正しく摂っている。	14.8	85.2
2	将来のためにも、今頑張りたいと思っている。	5.6	94.4	何か目標をたてたらそれをやりきることができる。	29.3	70.7
				学習や部活動に目標を持っている。	15.2	84.8
3	自律を意識し、責任ある行動をとっている。	16.7	83.3	よくないことだとわかっていても、友達がやるので自分もやる。	70.7	29.3
				時間をみて行動している。	13.3	86.7
4	自分の理想の実現に向かって努力している。	15.6	84.4	学習での自分の目標実現に向けて、積極的に努力をしている。	30.4	69.6
				学習方法や部活動の練習は、自分なりに工夫をしている。	24.4	75.6
5	自己を見つめ，個性を伸ばそうと努力している。	18.9	81.1	自分の短所や長所を理解している。	18.9	81.1
				自分の長所や個性を理解し、それを伸ばすよう努力している。	25.2	74.8
6	礼儀を重んじ、時と場合に応じた言動をとっている。	10.4	89.6	近所の人に会ったときは、挨拶をしている。	11.1	88.9
				時と場合、相手に応じて言葉遣いをきちんとしている。	4.8	95.2
7	人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。	4.4	95.6	「うざい」「きもい」「死ね」などと言う。	51.5	48.1
				悪口や中傷を言ったり、インターネットに書き込んだりする。	93.7	6.3

以下省略

（３）道徳教育運営委員会及び公開研究会の開催

道徳教育運営委員会（平成２２年７月２２日（木））及び公開研究会（平成２２年１１月８日（月））を実施することによって，２年間の研究成果の評価を受ける。

４　成果と課題

【成果】

・道徳教育推進に向けて，道徳教育推進委員会及び道徳教育運営会議を開催し，全体計画の作成を行った。また，道徳教育と関連する領域の年間指導計画や各教科等における年間指導計画（中学校道徳の内容との関連）を作成することで全教職員での道徳教育推進が可能になった。

【課題】

・道徳教育アンケートの結果から生徒の意識と行動との差が大きいことが分かった。この差を埋めていけるように，各教科等の目標と道徳教育の目標を明確に意識しながら，適切な指導を行っていきたい。